

関東、九州に続き、関西も梅雨入りしました。やはりアジサイは梅雨空のもと傘を差しての鑑賞が映えるような気がします。

現在会員登録数 3,792 人さま。次号は 7 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》ふくろう庵ときどき

《2》この本読んだ？

《3》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《4》子どもの本の珠玉のことば

《5》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

■-----
【1】お知らせ

● IICLO オンライン講座 I 「授業に役立つ！子どもの文学5つのレッスン」第3回「あまんきみこを読み直す①「白いぼうし」と「名前を見てちょうだい」」の配信を開始しました。

◎講師：宮川健郎（当財団理事長）

◎発展読書案内：土居安子（当財団総括専門員）

◎視聴料：1300円 ◎対象：子どもの本に関心のある方ならどなたでも

※お申し込み（Peatix）→ <https://iicloonline1-3.peatix.com>

◇全5回のうち、第1回と第3回を配信中です。内容、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#iicloonline1

● オンライン講座「2021年に出版された子どもの本から」

2021年に出版された子どもの本約300冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子どもの本の傾向について考えます。（約3時間）

◎講師：土居安子（当財団総括専門員） ◎視聴料：1000円

※お申し込み（Peatix）→ <https://2021kodomonohon.peatix.com>

● 新しい出版物の販売を開始しました

『報告集「しかけ絵本に驚く、楽しむ イギリスの歴史からはじめて」』1430円
2020年に開催した三宅興子さんの講演会の報告集です。

『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第35号 1650円

朱自強さんの第18回 国際グリム賞受賞記念講演録も掲載されています。

詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai

● 寄付金を募集しています

当財団は、子どもの文化を振興し、子どもと本をつなぐ活動を充実させるために活動しています。その活動をより充実させるために、皆さまからのご寄付を継続的に募っています。クレジットカードもご使用可能です。ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

年間1万円以上のご寄付でイイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable → <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■

【2】コラム

■ ----- ■

《1》 ふくろう庵ときどき 2

「今江祥智さん・上野瞭さん・灰谷健次郎さん」 三宅興子(当財団特別顧問)

日本児童文学の歴史を学び始めた1960年代、子どもの文学というと「童話」のことでした。明治時代から雑誌も含めて子どもの本は、盛んに出版されていましたが、幼児は短い単純なものしか理解できないという思い込みが続いていましたから、石井桃子さんの『ノンちゃん雲に乗る』1947、再版1956は、とても新鮮でした。そんな状況下で、日本の創作児童文学作家に作品刊行の場を用意したのが小宮山量平さんの創業した理論社でした。そして、1970～80年代に続々と創作作品を刊行し、念願の長編作品も数多く出版され、一つの時代を創りました。その中心にいたのが、今江祥智さん・上野瞭さん・灰谷健次郎さんの3人でした。

3人は、関西人ですが、大阪・京都・神戸と育った土地が異なり、ライバルでありながら、それぞれの作品を評価しあった得難い友人でもあったと思います。3人が競い合って目指した「分厚くて重い本」は、いまでも読み継がれています。灰谷さんの『太陽の子』1978は、沖縄返還50年目の今年2022年に改めて評価されています。

長編の児童文学作品を出版するという日本児童文学の歴史を、理論社の小宮山さんと3人の作家の出会いが作りました。3人ともに、『ぼんぼん』1973、『ひげよ、さらば』1982、『兎の眼』1974と、それぞれに、大人から小学生まで読める「分厚くて重い本」(理論社の大長編シリーズ)を出版したのです。上野さんが、『ひげよ、さらば』を手にもって、1140グラム、780ページあると自慢されたのを覚えています。

* 不定期連載の予定です。

《2》 この本読んだ? Yasuko's & Satoko's Talk

『ハッピー・クローバー!』 高田由紀子/作 ゆうこ/絵 あかね書房

2022年5月 対象年齢：小学校中学年以上

* 今回のゲストは当財団の特別専門員の小松聡子さん(S)です。

* 作品の結末まで書かれています。

あらすじ：小学4年生のあおばは、パパが単身赴任で、美容師のママと二人

で暮らしている。ある日、あおばの近所に、ママの妹の同級生である知実（ともみ）おばさんの家族が引っ越してくる。知実おばさんには、あおばと同級生の風花（ふうか）と6年生の実里（みのり）がいた。実里はダウン症のため、同じ学校のにじ組に通うことになる。あおばはダウン症のことを知らなかったが、実里と出会うことで、実里の魅力を知っていき、また、妹の風花の気持ちにも気付いていく。

- Y：主人公のあおばは、背が高くてサッカーが大好きな少女です。
- S：そんなあおばに、ママは「これ以上あんまり大きくなりませんように。」「女の子はかわいい方が得なんだからね。」と言います。この物語は、あおばが実里・風花姉妹と出会ったことによって、ママにベリーショートの新髪型にしてほしいと言えるようになるまでが描かれていて、物語の運びがとてもうまいと思いました。
- Y：偏見は、ダウン症の実里に対してだけでなく、身のまわりにあることがわかる仕掛けになっています。
- S：そう、そして、あおばも、実里に対して、ダンスが得意であることに驚き、勝手に運動は得意じゃないと決めつけていた自分に気がきます。
- Y：この作品には、あおばのサッカー仲間である大地と西野が登場して、作品にスパイスを利かせています。大地はあおばの高い身長をからかいますが、実は大地自身は背が低いことで悩んでおり、あおばをうらやましいと思っていたことがわかります。
- S：西野は、実里の書いた文字のことをばかにし、風花は西野に怒りを爆発させます。けれど、風花は、西野自身の悩みを知ることによって、西野の謝罪を受け入れます。そして、姉を守ろうとがんばってきた風花が、「わたし、……ちょっとみんなにバリアをはりすぎてたかも」と言うのです。
- Y：あおばに気付きがあるように、風花も、大地も、西野も、実里との経験を通して深く考えたり、友情を深めたりできるようになっている点がこの作品の魅力だと思って読みました。
- S：もうひとつの魅力は、タイトルにあるクローバー。風花は、あおばに、実里を四つ葉のクローバーにたとえて説明します。
- Y：そして、最後の場面では、実里、風花、あおばの3人でクローバーを摘んで遊びます。
- S：そのとき、あおばが他より大きくて、緑色が濃くて、元気な三つ葉のクローバーを見つけて、「これ、なんだかわたしみたい。四つ葉のクローバーみたいに、特別じゃなくてもいい。他のクローバーと、ちょっとちがっててもいいよね。わたしはこのクローバーが好き」と思います。ありのままの自分を好きだと自分で自分を肯定したところで終わっていて、さわやかな読後感が残りました。

《3》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第82回 童話集『注文の多い料理店』序

語りのオリジン(起源)

前回の「或る農学生の日誌」(当メルマガ NO.141)には、こんなところがあります。——「まだ朝の風は冷たいけれども学校への上り口の公園の桜は咲いた。けれどもぼくは桜の花はあんまり好きでない。(中略)誰も桜が立派だなんて云わなかったら僕はきっと大声でそのきれいさを叫んだかも知れない。」(「一千九百二十五年五月五日 晴」)そして、「僕は却ってたんぽぽの毛の方を好きだ。夕陽になんか照らされたらいくら立派だか知れない。」というのです。ここから思い出すのは、1924年に刊行された賢治の童話集『イーハトヴ童話 注文の多い料理店』の序です。つぎは、その書き出し。

くわたしたちは、氷砂糖をほしいくらいもたないでも、きれいにすきとおった風をたべ、桃いろのうつくしい朝の日光をのむことができます。

またわたくしは、はたけや森の中で、ひどいぼろぼろのきものが、いちばんすばらしいびろうどや羅紗や、宝石いりのきものに、かわっているのをたびたび見ました。

わたくしは、そういうきれいなたべものやきものをすきです。)

農学生が好きだという、たんぽぽの毛は、この風や日光のようなものかもしれませぬ。桜のように立派ではないけれど、身近で、でも、美しいもの。

童話集が刊行されたときの広告ちらしは、まず、「イーハトヴは一つの地名である。」とあって、「じつにこれは著者の心象中に、このような状景をもって実在したドリームランドとしての日本岩手県である。」とも記されています。当時の「日本岩手県」は、まずしい農村地帯にほかなりませんでした。それに重ねて「イーハトヴ」という「ドリームランド」が描き出されます。これは、序の「ひどいぼろぼろのきもの」がすばらしいきものに「かわっているのをしばしば見ました。」という想像力でもあります。

前々回の「サガレンと八月」(当メルマガ NO.140)には、後半のタネリの物語が書き留められる前に、「こんなオホーツク海のなぎさに座って乾いて飛んで来る砂やはまなすのいい匂を送って来る風のきれぎれのものがたりを聴いている」とあります。これも、序の「これらのわたくしのおはなしは、みんな林や野はらや鉄道線路やらで、虹や月あかりからもらってきたのです。」ということばにつながってきます。賢治のテクストに時おり見出せるこれらを、天沢退二郎は、「語りのオリジン(起源)」としたのです(「詩人《宮澤賢治》の成立」1968年)。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《4》子どもの本の珠玉のことば 36

とうとう
ある月のきれいなよる、
からだじゅうを
ものすごくゆすりますと、
ほら、ちびっこの木は、
じめんから
ぬけだしたではありませんか。
ちびっこの木は、
百本もねっこがあつて、
はらっぱの上だつて
はしれます。

(『あるきだした小さな木』テルマ＝ボルクマン/作 シルビー＝セリグ/絵
花輪莞爾/訳 偕成社 1969年11月初版、1999年11月75刷から引用 p.16-17)

子どもの時に大好きだった本です。私は子どものころからずっと背が低かったので、まずは「ちびっこの木」が活躍するお話ということに惹かれました。ちびっこの木は、森の中にやってきた人間の男の子を見て、「あの人たちと

いっしょに「くらそう。」と思いたちます。仲良しのすずめに気持ちを打ち明けると「木はあるけない」と言われます。ところが、「でもほんとうに／木はあるけないかしら。／／それはいままで、／ためしにあるこうとした木が、／一本もなかったからです。」(p.15)とあります。

そして、引用の部分にあるように、ちびっこの木は、歩き始めるのです。ここには、「できない」なんてことはそう簡単には決められないということが書かれていて、幼い私は目を開かれたように思いました。ちびっこの木が歩き始める絵もユーモラスで、この絵を見ると、木も歩くことができると思えます。

それから、ちびっこの木は、さまざまな経験をし、お金持ちの家の庭に閉じ込められますが、父の禁じる青年と恋に落ちたお金持ちの娘を助け、また、娘たちにも助けられて庭を逃げ出します。そうやって広いさばくにやってきて、鳥や人間の休息の場になり、大きな木へと成長します。ちびっこの木の幸せは、自由であることと、誰かのために生きることだと描かれ、大きな満足感を得ました。久しぶりに読み返しましたが、挿絵の美しさを改めて感じました。(Y)

《5》行って来ました！

大阪市立科学館のプラネタリウムに行ってきました。現在は「天の川クルーズ」「星降る夜に～流星群の正体に迫る～」「ファミリータイム」「学芸員スペシャル」などのプログラムが実施されています。私が行ったのは「学芸員スペシャル」という担当学芸員おまかせのプログラムで、この日は学芸員の石坂千春さんによる解説でした。

前半は大阪の今晚の空の解説です。夕方から明け方までの東西南北に見える、月や太陽系の惑星、しし座、おおぐま座、おとめ座などの星座などについて、形や地球との距離などの説明がありました。北斗七星と北極星を探せば北がわかるという解説では、小学校で習った記憶がよみがえりました。

後半は、今年4月、初めて撮影に成功した「ブラックホール」についてで、「ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦」という映像を見ました。国際的な研究チームが、地球から5500万光年離れたおとめ座のM87という天の川銀河の中心にあるブラックホールの撮影に成功するまでの軌跡が紹介されました。ブラックホールを撮影するというのは、地球から月面に置いたテニスボールを撮影するぐらいの精度を求められるということで、電波望遠鏡を使って複数の位置から撮影し、一つの画像にしたことを知りました。その過程を知ることで、人間の探究心ってすごいなあと思いました。

プラネタリウムは、宇宙や化学や電気についての展示がある科学館に併設されており、家族で科学のおもしろさを満喫できる場所だと思いました。(K)

大阪市立科学館 <https://www.sci-museum.jp/>

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 「生誕100年元永定正展－伊賀上野から神戸、そしてニューヨークへ－」
会期：開催中～7月3日(日)
場所：兵庫県立美術館 入場料：有料 月曜定休

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

【４】プレゼント

■ ----- ■

今号の【１】お知らせで紹介しました『報告集「しかけ絵本に驚く、楽しむ イギリスの歴史からはじめて」』と『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第35号を各1名にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.142 プレゼント希望」とし、(1)ご希望の出版物名 (2)お名前 (3)郵便番号・住所 (4)電話番号 (5)メールアドレス、よろしければ (6)このメルマガのご感想をお書きのうえ

office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は7月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

日によってあるいは朝夕と昼間とで気温の変化が激しいこの頃です。長袖を仕舞い切るには不安がよぎり、半袖と共存しています。この前の休日など、朝、昼、夜と一日に3回も着替えました。このように、天候不順の毎日ですが、みなさまご自愛ください。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
